

湖北医療圏における大腿骨頸部骨折の疫学調査

湖北大腿骨頸部骨折ワーキンググループ

○琴浦良彦（市立長浜病院） 高橋健志郎（長浜赤十字病院） 千保一幸（長浜市立湖北病院）
小池和弘（長浜赤十字病院） 江藤謹司（市立長浜病院） 堀 一郎（長浜市立湖北病院）
要石恵利子（長浜保健所）

（目的）

滋賀県湖北医療圏における大腿骨頸部骨折の正確な発生率を調査するため市立長浜病院、長浜赤十字病院、長浜市立湖北病院の3病院に入院した大腿骨頸部骨折患者の全症例をリストアップし、在院日数や骨折発生場所、退院先などについても調査を行った。

（方法）

平成20年4月1日から平成21年3月31日の1年間湖北3病院に入院した大腿骨頸部骨折の患者の内、医療圏外および65歳未満の患者を除外した240例を対象とし、あらかじめエクセルのマクロ機能を使って作成したプログラムによって解析した。平成20年滋賀県推計人口年報をもとに、湖北医療圏の大腿骨頸部骨折の骨折発生率、年齢別発生率、居住地別発生率を算出し、国内外の過去のデータと比較した。また在院日数、骨折発生場所、退院先等についても調査した。

（結果）

・発生数、発生率

1年間の3病院の調査対象となる患者数は240名、内男性44名、女性196名で、65歳以上の人口10万人あたりの発生数は男性281、女性933であった。

・年齢別、居住地別発生件数

入院時の平均年齢は男性83歳、女性85歳で男女ともピークは85歳より90歳までの5年間であった。市町村の居住地別の発生率には相違がみられた。

・滋賀県内過去のデータとの比較

1981年より6年間にわたる高島郡のデータ、1995年より5年間の長浜市のデータと比較したが時代の経過と共に10万人あたりの発生数は増加している（図1）。

・全国調査、海外調査との比較

折茂らの行った1997年の全国調査の推計値と比較すると年齢別10万人あたりの発生数は今回行った調査の方が増加していた。カナダで1985年より

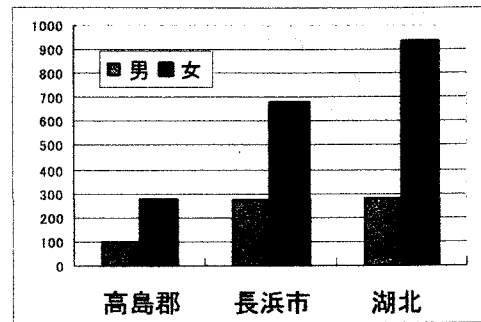


図1 滋賀県内過去データとの比較

2005年まで実施された全国調査の年齢別発生率とはほぼ同様の傾向がみられた。

・平均在院日数

日本整形外科学会の実施した2005年の調査では在院日数の全国平均は48日、滋賀県平均は54日で湖北3病院の平均は38日と短かった（図2）。

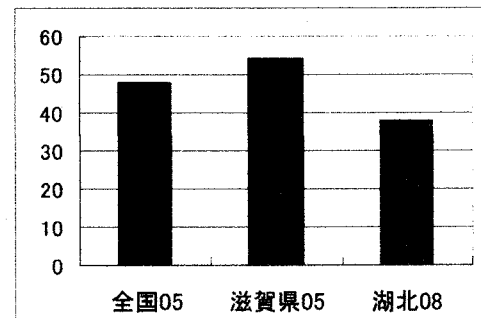


図2 平均在院日数の比較

・骨折発生場所、退院先

入院患者のうち20%は施設内骨折で今後の検討課題と考えられた。自宅への退院は70%で全国平均より高かった。

（まとめ）

湖北医療圏において湖北3病院、長浜保健所の協力によって大腿骨頸部骨折の全数チェックによる精度の高い疫学調査を行った。今後この調査を継続していくことによって国内外の他地域との比較や湖北医療圏における高齢者医療に対する取り組みの重要な資料となる。